

風土を温める

シリーズ 高山の文化財②

「市指定文化財」 垣内遺跡三ツ岩

垣内遺跡がある通称「上野平」

は、市街地から百ほど高い場所にあり、多くの縄文遺跡があることで知られています。東に飛驒山脈、西に白山が眺望できる見晴らしの良い立地で、日照時間が長く、縄文時代の人たちにとっても、住みやすい環境であったようです。



「垣内遺跡三ツ岩」の全景（空撮）

「垣内遺跡三ツ岩」には、その名のとおりに三つの岩があります。この石に触ると祟りがあるという言い伝えがあり、昔から畏敬の念がはらわれていました。

縄文時代には、岩が一定間隔で十個以上環状に並び、円を描いていたと推定されています。このような遺構を「環状列石」といいます。環状列石は、秋田県鹿角市にある大湯環状列石が有名ですが、三ツ岩も同じ形態であったと考えられています。この形態の遺跡は数少なく、全国的にも注目されています。縄文人の精神世界を解明する上でも、貴重な資料といえるでしょう。

三ツ岩に関する調査は古くから行われていました。作家で考古学者でもある江馬修は、昭和九年にこの遺跡で縄文土器を採取しています。また、聞き取り調査を行い、現存する三つの岩のほかに七つ以上の岩があったことを確認して、直径約三十メートルの環状列石を想定しています。



残されている岩のひとつ

平成元・二年度には、農地の区画整備に先立ち、市教育委員会によって発掘調査が行われました。その結果、約五千平方メートルの調査区域から、中央の広場を取り囲むように配置された縄文中期後半から後期前半にかけての住居跡が多数発見されました。

縄文中期後半の住居跡は四十八基あり、中央の土壇群を中心に円を描くように配置されています。また、後期前半の住居跡は少し小さい径で二十基あり、ほぼ同じ位置に環状に配置されていることがわかりました。さらに、大規模な環状集落の内側にある三ツ岩は、中央広場にある土壇群の外縁に沿って並んでいた環状列石の一部であることも確認されました。この調査結果などにより「垣内遺跡三ツ岩」は、平成三年に市の文化財に指定されました。

発掘調査によって出土した遺物は土器・石器類のほかに、六十六点もの土偶やミニチュア土器などの土製品、男性原理の象徴とされる石棒、玉類など興味深いものが多くあります。これらの遺物は、赤保木町にある風土記の丘学習センターに保管され、一部が展示されています。

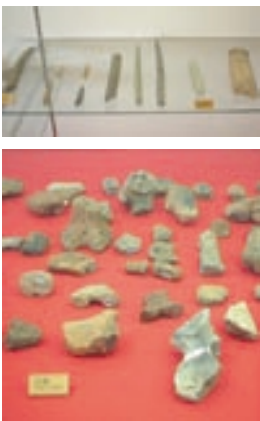
※土壇は地面に掘られた穴状の遺構で墓として使用されたと考えられる。

〈所有者〉 木村博一さん

〈所在地〉 上野町

〈時代〉 縄文中期～後期

▽風土記の丘学習センターの開館時間
午前九時～午後四時三十分
(休館日) 月・火曜日、祝日



風土記の丘学習センターに展示されている遺物